

昭和59年 茨城県鋳工業指数の概要

1. 全国の動向

(1) 生産

鋳工業生産は、58年年初以降回復基調に転じた後59年に入ってから輸出の好調な伸び及び設備投資の堅調な動きに支えられ前年比11.1%増と、昭和51年(同11.1%増)以来の高い伸びとなった。四半期別の推移をみても、59年7～9月期に伸びは鈍化したものの、他の期はいずれも前期比3%前後の好調な伸びを示した。また、出荷も前年比8.7%増の高い伸びとなった。

このように59年の鋳工業生産、出荷は拡大基調を持続したが、59年の生産、出荷動向の特徴は次のように要約できる。

- ① 電気機械工業を中心とする生産の拡大
- ② 内外需に支えられた出荷の上昇
- ③ 堅調な国内向け資本財出荷
- ④ 年央以降勢いの鈍化した国内向け生産財出荷

59年の生産動向をみると、加工型産業は前年比20.1%、素材型産業同7.4%と各々上昇となった。いずれも59年を通して上昇傾向を続けたが、加工型産業の生産は引き続き高い伸びを示し、過去のピーク水準を超えて拡大過程をたどっているのに対して、素材型産業は、回復に向かってから2年弱経過した59年10～12月期に至っても、未だ55年1～3月期の水準に達していない。加工型産業についてみると、電気機械工業は加工型産業総合を上回り勢いよく伸びており、59年の生産水準は、55年の約2倍となった。他の3業種(一

表一 1 鋳工業指数の推移

(55年=100, 原指数)

		55年	56年	57年	58年	59年
茨城県	生産	100.0	100.3	100.3	105.1	114.4
	対前年増減率(%)	2.0	0.3	0.0	4.8	8.9
	出荷	100.0	102.0	104.2	110.2	119.0
	対前年増減率(%)	0.7	2.0	2.2	5.8	8.0
県	在庫	105.4	101.2	99.5	90.1	112.4
	対前年増減率(%)	15.1	△4.0	△1.7	△9.5	24.8
全国	生産	100.0	101.0	101.3	104.9	116.5
	対前年増減率(%)	4.7	1.0	0.3	3.6	11.1
	出荷	100.0	100.6	99.8	103.4	112.4
	対前年増減率(%)	2.9	0.6	△0.8	3.5	8.7
国	在庫	103.1	99.4	97.9	92.8	101.4
	対前年増減率(%)	8.3	△3.6	△1.5	△5.2	9.3

般機械工業、輸送機械工業、精密機械工業)も堅調な伸びを示し各々の過去のピークを上回り拡大しているものの、その動きは、電気機械工業に比べ緩やかである。

一方、素材型産業をみると、いずれの業種も上昇基調で推移しているが、総じて59年に入り上昇テンポの鈍化がみられる。素材型産業のなかでは化学工業(除く医薬品)が、ポリエチレン、ポリスチレンなどの汎用樹脂が好調に推移したため、またバルブ・紙・紙加工品工業も段ボールシートなどが堅調に推移したためそれぞれ過去のピークを上回った。

その他の業種では、石油・石炭製品工業が5年ぶりの上昇となった。一方、食料品・たばこ工業、木材・木製品工業は低下となった。

表一 2 鋳工業指数の推移 <全国>

(55年=100, 季調済)

	57年	58年	59年	57年				58年				59年			
				1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
				期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期
生産	101.3	104.9	116.5	102.3	101.1	101.6	100.4	101.3	103.2	105.9	109.0	112.5	115.6	117.3	120.6
前期(年)比	0.3	3.6	11.1	△0.9	△1.2	0.5	△1.2	0.9	1.9	2.6	2.9	3.2	2.8	1.5	2.8
前年同期比	—	—	—	2.8	1.2	0.0	△2.4	△0.9	2.1	4.2	8.6	11.1	12.0	10.7	10.6
出荷	99.9	103.4	112.4	100.6	99.6	100.2	99.1	100.3	102.0	104.5	106.6	110.0	111.5	112.5	115.6
前期(年)比	△0.7	3.5	8.7	△1.3	△1.0	0.6	△1.1	1.2	1.7	2.5	2.0	3.2	1.4	0.9	2.8
前年同期比	—	—	—	1.2	△0.2	△1.3	△2.4	△0.3	2.4	4.3	7.6	9.7	9.4	7.6	8.4
在庫	97.9	92.8	101.4	102.0	102.4	101.1	98.9	97.2	96.6	94.5	94.2	95.7	100.0	100.2	102.9
前期(年)末比	△1.5	△5.2	9.3	2.4	0.4	△1.3	△2.2	△1.7	△0.6	△2.2	△0.3	1.6	4.5	0.2	2.7

図-1 鉱工業指数の推移

図-1-(1) 生産

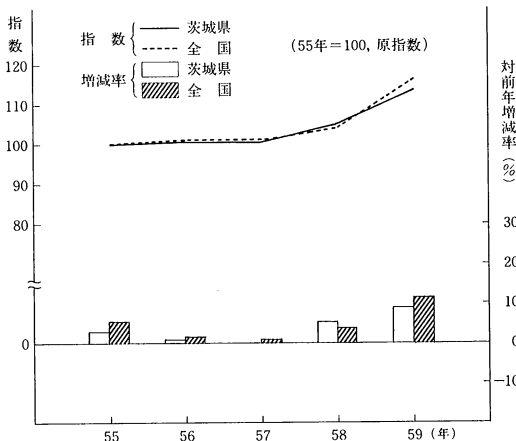
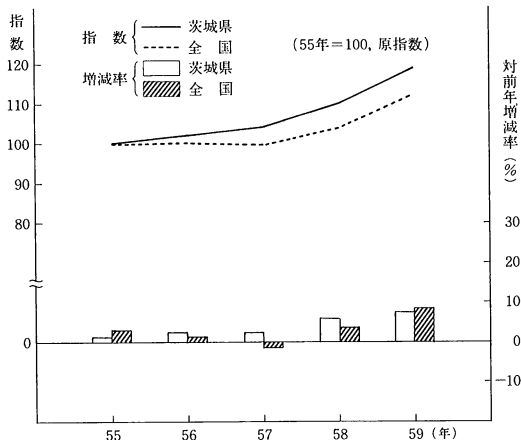


図-1-(2) 出荷



(2) 出荷

59年の鉱工業出荷は、前年比8.7%上昇した。昨年同様、電気機械工業等を中心とした機械工業の伸びが高く、前年比16.9%上昇した。

(3) 在庫

59年の鉱工業生産者製品在庫は前年末比9.3%と4年ぶりの上昇となった。

2. 本県の動向

59年の本県における鉱工業指数をみると、前年に引き続き好調な伸びを示し、生産は114.4で前年比8.9%の上昇、出荷は119.0で同8.0%の上昇、在庫は112.4で同24.8%の上昇であった。

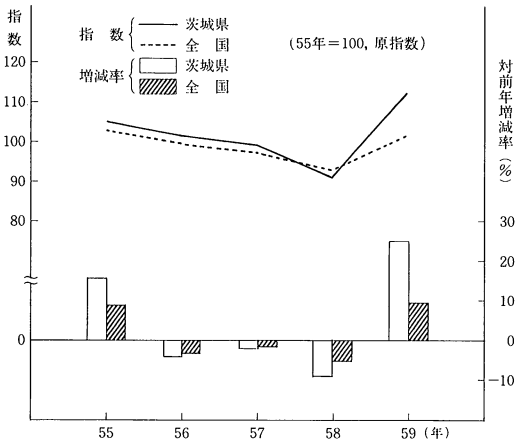
年間の動きを四半期別にみると、生産は依然好調な機械工業に支えられ、1～3月期は前期比で1.4%の上昇、4～6月期は同3.7%の上昇となったが、7～9月期は同△1.3%の低下となった。しかし、10～12月期には同4.0%の上昇と、再び上昇傾向に転じた。出荷は、1～3月期は前期比で△0.1%の低下、4～6月期は同5.1%の上昇、7～9月期は同△1.6%の低下、10～12月期は同2.3%の上昇となった。在庫は、1～3月期は前期比で

表-3 業種別対前年増減率

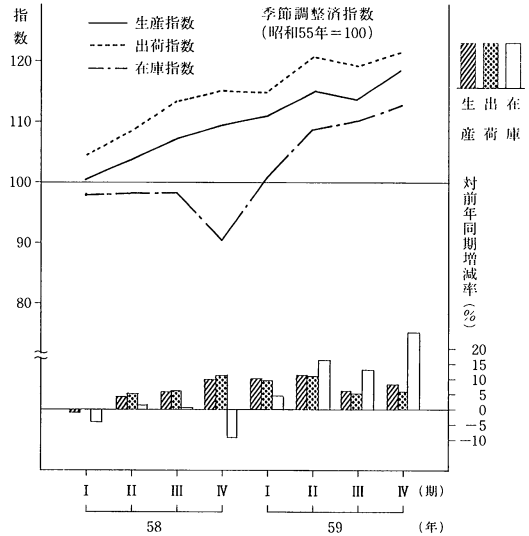
(原指数, 増減率, 単位: %)

業 種	生 産		出 荷		在 庫	
	58年	59年	58年	59年	58年	59年
鉱 工 業	4.8	8.9	5.8	8.0	△9.5	24.8
製 造 工 業	△4.9	△4.7	△4.8	△7.4	159.8	4.7
鉄 鋼 業	4.8	8.9	5.8	8.0	△9.5	24.8
非 鉄 金 属 工 業	△4.6	7.0	△2.8	8.6	△17.1	2.3
金 属 製 品 工 業	△1.0	△0.6	△0.8	3.1	△10.3	13.2
機 械 工 業	8.1	2.6	9.6	0.6	7.7	△5.4
一 般 機 械 工 業	9.1	8.9	13.0	9.4	△9.8	43.7
電 気 機 械 工 業	7.0	△6.6	9.9	△7.7	△10.3	41.4
輸 送 機 械 工 業	12.8	19.3	18.7	22.2	△12.7	54.9
精 密 機 械 工 業	△7.5	△5.6	△5.1	△5.0	△32.9	△0.7
窯 業・土 石 製 品 工 業	16.4	5.5	15.0	7.2	54.9	△3.9
化 学 工 業	4.4	32.7	2.2	42.1	△11.3	49.1
石 油・石 炭 製 品 工 業	13.3	16.8	12.7	12.6	△11.9	23.2
パ ル プ・紙・紙 加 工 品 工 業	6.5	7.6	2.0	6.0	5.9	48.9
織 維 工 業	6.7	6.2	3.5	7.8	6.9	12.3
木 材・木 製 品 工 業	△2.6	△3.6	△5.5	△7.6	△15.4	29.0
食 料 品・た ば こ 工 業	△3.6	△6.9	△3.8	△7.5	△1.4	△2.4
そ の 他 工 業	△0.9	5.0	0.5	0.0	△16.0	38.2
ゴ ム 製 品 工 業	0.9	7.8	1.7	4.6	△0.6	14.1
皮 革 製 品 工 業	3.3	12.4	△1.2	10.2	9.5	△21.4
プ ラ ス チ ッ ク 製 品 工 業	1.5	1.0	0.2	△1.8	33.3	△43.5
そ の 他 製 品 工 業	5.1	6.8	3.9	4.3	1.8	19.0
	△16.7	9.3	△7.7	2.1	△27.4	20.4

図一 1-(3) 在庫



図一 2 鉱工業指数の四半期推移



11.7%の上昇、4～6月期は同7.1%の上昇、7～9月期は同2.1%の上昇、10～12月期は同2.2%の上昇となった。

前年同期比でみると、生産は1～3月期が10.6%の上昇、4～6月期が11.5%の上昇と、高い伸びであったが、7～9月期は5.9%の上昇と、やや上昇率が鈍化した。しかし、10～12月期には7.9%の上昇と、やや持ち直した。出荷は、1～3月期が10.1%の上昇、4～6月期が11.4%の上昇と高い伸びであったが、7～9月期が5.2%の上昇、10～12月期が5.6%の上昇と、伸びの鈍化がみられた。在庫は、1～3月期が4.1%の上昇、4～6月期が10.3%の上昇、7～9月期が12.9%の上昇、10～12月期が24.8%の上昇と

なり、4～6月期以降はかなり高い上昇率を示した。

また、業種別生産指数をみると、前年に引き続き電気機械工業が上昇したのをはじめ、窯業・土石製品工業、化学工業の上昇が目立った。一方、低下したのは、前年に上昇に転じた一般機械工業が、再び低下したのをはじめ、輸送機械工業、木材・木製品工業等であった。なお、機械工業全体をみてみると、一般機械工業、輸送機械工業が低下したものの、ウエイトの大きい電気機械工業が大幅に上昇したため、前年比8.9%の上昇となった。

表一 4 鉱工業指数の四半期推移 <茨城県>

		(55年=100, 季調済)							
		58 年				59 年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
生産	季節調整済指数	100.3	103.2	107.3	109.4	110.9	115.1	113.5	118.1
	対前年増減率 (%)	1.3	2.9	3.9	2.0	1.4	3.7	△1.3	4.0
	対前年同期増減率 (%)	△1.7	4.2	6.0	10.5	10.6	11.5	5.9	7.9
出荷	季節調整済指数	104.3	108.4	112.9	115.0	114.8	120.7	118.8	121.5
	対前年増減率 (%)	1.3	3.9	4.2	1.9	△0.1	5.1	△1.6	2.3
	対前年同期増減率 (%)	0.0	5.2	6.0	11.6	10.1	11.4	5.2	5.6
在庫	季節調整済指数	97.4	98.5	98.2	90.7	101.4	108.6	110.9	113.3
	対前年増減率 (%)	△2.7	1.1	△0.3	△7.6	11.7	7.1	2.1	2.2
	対前年同期増減率 (%)	△4.5	1.6	0.2	△9.3	4.1	10.3	12.9	24.8

本県と全国との生産指数の動きを比較してみると、本県では前年比が8.9%の上昇であったのに対し、全国では同11.1%の上昇と、本県を上回る伸びを示した。また、本県では電気機械工業等が指数の上昇に寄与したわけであるが、全国の指数の上昇にも同様のことがいえる。

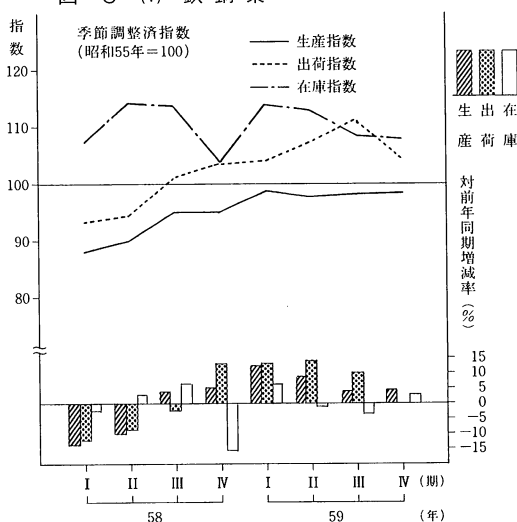
3. 主要業種の概要

(1) 鉄鋼業

59年の鉄鋼業の生産は、ややもちなおし、98.3と前年比7.0%の上昇となった。出荷については、106.7で同8.6%の上昇、在庫は、103.9で同2.3%の上昇となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期4.1%の上昇、4～6月期△1.3%の低下、7～9月期1.2%の上昇、10～12月期0.3%の上昇となった。前年同期比では、各期とも前年より上昇したが、特に、1～3月期においては12.1%と大きく上昇した。品目別にみると、銑鉄、フェロアロイ、特殊鋼冷延鋼板等が上昇し、鋳鋼品、普通鋼冷延鋼板等が低下した。

図-3 主要業種の概要
図-3-1(1) 鉄鋼業



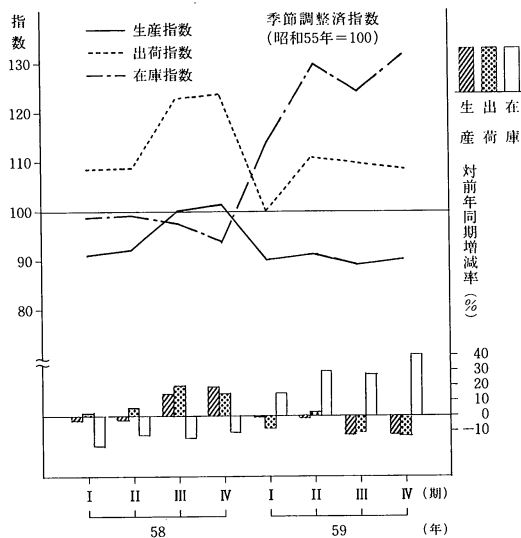
(2) 一般機械工業

59年の一般機械工業の生産は、89.7で前年比△6.6%の低下、出荷は106.8で同△7.7%の低下、在庫は142.9で同41.4%の上昇となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期は△11.7%の低下、4～6月期は1.2%の上昇、7～9月期は△2.6%の低下、10～12月期は1.8%の上昇となった。前年同期比では、各期とも低下したが、特に、7～9月期及び10～12月期については、10%台の低下となった。品目別にみる

と、計算機械(ハンデ型)、空気動工具、油圧バルブ等が上昇し、タービン、乗用車用エアコン等が低下した。

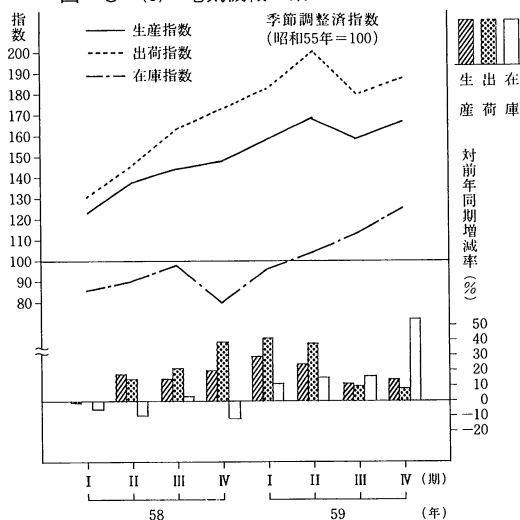
図-3-2 一般機械工業



(3) 電気機械工業

59年の電気機械工業の生産は、162.9で前年比19.3%の上昇、出荷は186.4で同22.2%の上昇、在庫は116.8で54.9%の上昇となり、それぞれ大幅な上昇をした。

図-3-3(3) 電気機械工業



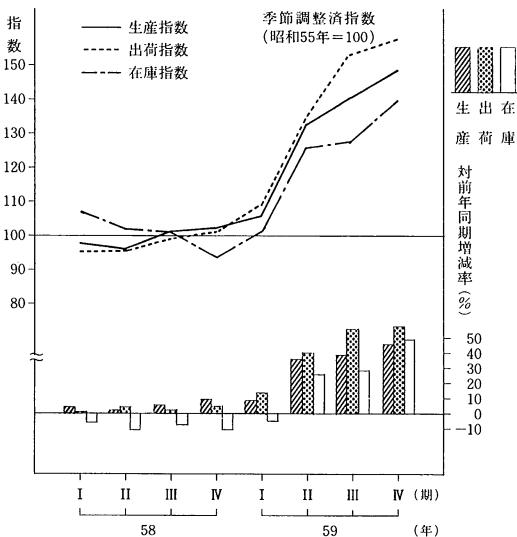
生産の年間の動きを前期比でみると、1～3月期は8.0%の上昇、4～6月期は6.1%の上昇、7～9月期は△5.9%の低下、10～12月期は5.4%の上昇となった。前年同期比では、各期ともそれぞれ上昇したが、特に、1～3月期においては、30.4%と大幅な上昇を示した。品目別にみると、特殊用途変圧器、非標準変圧器、シリコン整流器等が上昇し、継電器、一般用テープレコーダ等が低下した。

(4) 窯業・土石製品工業

59年の窯業・土石製品工業の生産は、131.7で前年比32.7%と大幅に上昇した。これは、陶磁器が低下したものの、ガラス製品が大幅に上昇したことによる。出荷は139.0で同42.1%の上昇、在庫は135.9で同49.1%の上昇となった。

生産の年間の動きを前期比でみてみると、1～3月期は3.9%の上昇、4～6月期は24.3%の上昇、7～9月期は6.7%の上昇、10～12月期は5.3%の上昇となった。前年同期比では、各期とも上昇したが、特に、4～6月期以降については、大幅な上昇となった。品目別にみると、ガラス製品、機器用碍子、遠心力鉄筋Cポール等が上昇し、護岸用Cブロック、プレストレスC製品等が低下した。

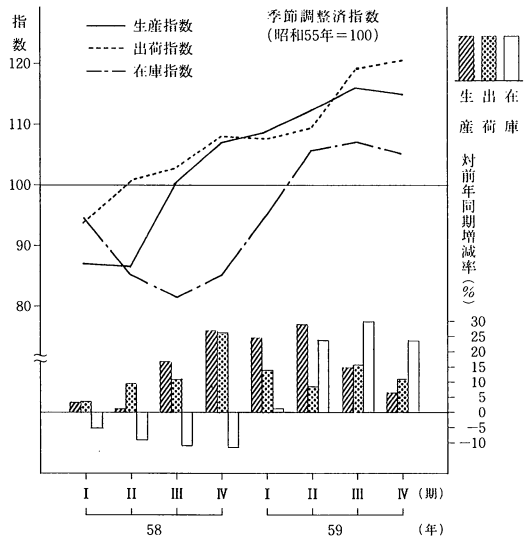
図一三—(4) 窯業・土石製品工業



(5) 化学工業

59年の化学工業の生産は、112.6で前年比16.8%と大幅

図一三—(5) 化学工業



な上昇となった。これは、塗料が低下したものの、その他のものが、それぞれ高い上昇となったためである。出荷は114.2で同12.6%の上昇、在庫は101.8で同23.2%の上昇となった。

生産の年間の動きを前期比でみると、1～3月期は1.1%の上昇、4～6月期は3.7%の上昇、7～9月期は2.9%の上昇、10～12月期は△1.0%の低下となった。前年同期比では、各期とも上昇したが、特に、7～9月期までは、大幅な上昇となった。品目別にみると、ポリエチレン、電気絶縁塗料、アンモニア等ほとんどの品目で上昇したが、合成樹脂塗料が大幅に低下したほか、複合肥料、酸化プロピレンが低下した。

(統計課・企画分析グループ)